

第4学年 道徳科学習指導案

令和7年2月8日（土）2校時

1 主題名 「分けへだてのない行動」C-(12)公正、公平、社会主義

2 ねらいと教材

(1) ねらい 友達に対する京一の接し方に疑問を感じた正広の思いなどを通して、誰に対しても分け隔てなく行動するために大切なことを考えさせ、公正、公平な態度で接しようとする判断力を育てる。

(2) 教材 「ちょっと待ってよ」（どうとく4 きみがいちばんひかるとき 光村図書出版）

3 学習指導過程

	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 □評価の視点（評価方法）
導入	1 分け隔てのない行動とはどのような行動なのかを考える。 ○分け隔てのない行動とは、どのような行動だと思いますか。 ・どんな人とも仲良くすること。 ・ひいきをしないこと。	・自分の経験を想起し、ねらいとする道徳的価値について考えられるようにする。 ・「分け隔てのない」という言葉の意味を補足説明する。
	だれに対しても、分けへだてなく行動するために大切なことは、何でしょう。	
展開	2 教材「ちょっと待ってよ」を読み、話し合う。 ○京一に「なんだよ。しっかりしろよ。」と言われた静花は、どんな気持ちだったでしょう。 ・足を引っ掛けたのは同じなのに、どうして男子と女子とで態度が違うのかな。ひどい。 ○ため息をついた正広は、どんなことを思っていたでしょう。 ・京一は男子だけにひいきをしている。なぜ、態度を変えるのだろう。 ○しょんぼりして椅子に座った友治は、どんなことを思っていたでしょう。 ・僕だって手伝いたい。どうして何もさせてくれないんだろう。 ○正広は、「みんな、ちょっと待ってよ。」と声を上げた後、どんなことを言ったでしょう。 ・友治の気持ちを考えてあげようよ。思い込みで決めるのはよくないよ。 ◎京一が、誰に対しても、分け隔てなく行動するために大切なのは、どんな考えでしょう。 ・＜自分＞自分に思い込みがないかを考える。 ・＜自分＞好き嫌いなど、自分の基準で物事を考えないようにする。 ・＜相手＞相手がどう思っているのかを分かろうとしないといけない。 ・＜相手＞自分が言われたら、どう思うかを考える。 ・＜価値＞思い込みで、人に優劣をつけたり、判断してしまったりしていないかを考える。 ・＜価値＞偏った見方や考え方はよくないと思う。	・静花の立場に立って、不公平な態度を取られたときの思いを考えられるようにする。 ・不公平な態度を見たり感じたりしている周囲の人の思いを想像できるようにする。 ・思い込みで判断されたり、自分の思いを聞いてもらえなかったりしたときの思いを考えられるようにする。 ・「京一や静花は、友治のけがのことを心配しているから作業をさせなかったのではないか。」と問い返すことで、相手の思いをくみ取って関わることの大切さに気付きやすくする。 ・公正、公平を実現することのよさについて一人一人が考えた後、考えを交流することを通して、多面的・多角的な考えに触れられるようにする。 □誰に対しても分け隔てなく公平に接することの大切さについて考えている。（記述、発言）
終末	3 本時の学びを振り返る。	・ねらいとする道徳的価値について、感じ方や考え方を深められるようにする。